

ウスメバル *Sebastes thompsoni*



地方名：てんから（小泊）、てり（岩崎）、つき

生態

- ①寿命：10年以上
- ②成熟：3歳（尾叉長18cm）以上
- ③産仔期：12月ごろ交尾し翌年4月～5月にかけて産仔。
- ④分布：日本海では石狩湾から対馬海峡まで、太平洋では函館から銚子まで。
- ⑤生態：卵胎生魚。体長4mm～5mmで産出。体長約16mmまで表層で浮遊生活。体長40mm～60mmまでを流れ藻に付随して生活。その後ごく沿岸で底層生活を送り、成長と共に沖合に移動。3歳以上になると80m～150mの岩礁域に生息。

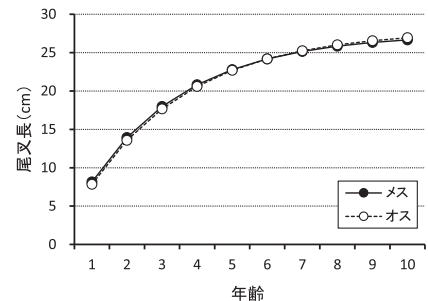


図 青森県日本海海域におけるウスメバルの成長

出典：菊谷（2001）メバル類の資源生態の解明と管理技術開発. 37-43.

主な漁業

青森県日本海では6月～8月に刺し網で、一本釣では周年漁獲され、盛漁期は5月～8月。主に水深80m～150mで漁獲される。日本海以外の海域では一本釣、本県太平洋北部では5月～6月に底建網により漁獲される。3歳～4歳から漁獲される。

資源の動向と水準

漁獲量は、2011年以降の減少傾向から2017年に増加に転じたものの、2025年には155トンまで減少した。2025年の資源動向は、コホート解析により推定した資源量の直近5年間の傾きから減少と判断した。資源水準は、推定した資源量を判断材料とし、その最高値と最低値との間を3等分し、上から高位、中位、低位とすると、中位であった。

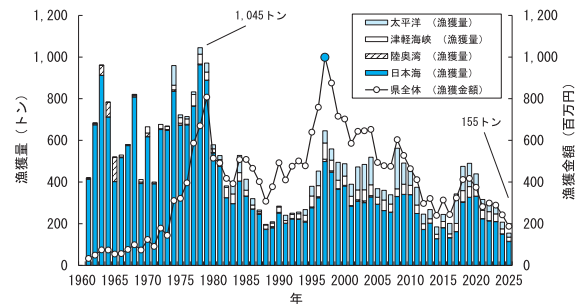


図 青森県ウスメバルの漁獲量及び漁獲金額の推移

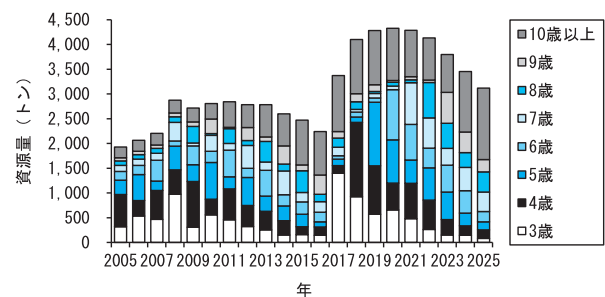


図 青森県ウスメバルの年齢別資源量の推移

資源を上手に利用するために

- 青森県における自主的資源管理措置等（日本海、津軽海峡地区）
 - ・小型魚の再放流（日本海110g、津軽海峡90g未満）や、休漁日を設定（日本海のみ）して実施している。
- ☆上記のような小型魚の漁獲を自粛する取組を継続することが必要である。

トピックス

- ・2000年から2024年まで県内各地で標識放流を実施した結果、標識放流尾数は合計4.8万尾で、そのうち58尾が再捕された。うち39尾は放流地点周辺で、残りの19尾は放流地点から20km以上離れた地点で再捕された。2025年の再捕報告はなかった。